離島人材育成基金助成事業で
石都「北木島」の復興を

岡山県笠岡市北木島町
北木石材商工業組合青年部
鳴本浩二

石の島「北木島」

笠岡諸島地域は、岡山県の南西部に位置し、南は香川県、西は広島県に接し、大小三〇有余の島々が南北に帯状をなして点在しています。

木地域は、神島外町（高島、大飛島、小飛島）、白石村（白石島）、北木島町（北木島）、及び真鍋島村（真鍋島、六島）の二町二村からなっていましたが、昭和二十八年の町村合併促進法の制定に伴い、昭和三十年四月に笠岡市に編入されました。そして、昭和三十二年には離島振興法に基づく離島振興対策実施地域として指定されています。昭和六十年から平成七年までの一〇年間における人口動向をみると、諸島全体で約二七％の減少率となっており、高齢者の割合は昭和六十年の二三％から平成七年の約三七％へと大きく増加しています。

笠岡諸島で一番大きい北木島が私の住む島です。笠岡から約二六・二キロメートル、笠岡諸島のほぼ中央に位置しており、面積、人口ともに本諸島中最大の島です。島全体が花崗岩からなる急峻な地形で人口約二一八七人（平成七年国勢調査）で教育施設としては幼稚園三、小学校三うち一分校、中学校一があり、他に医療施設として診療所三、歯科診療所一という状況です。産業面では、石の島として全国に知られており、古くは大阪城の石垣石に大量に使われたり、靖国神社の鳥居などにも使われています。本格的に石材の採掘が始まったのは明治時代に入ってからで、約

一〇〇年の歴史をもっています。近年の円高ドル安の影響により外材のウエイトが非常に高くなり、国内需要の低迷がこのところ長く続いています。現在、採石場は最盛期の一三〇軒から比べると八軒に激減していますが、加工場は六〇軒近くあり、石の産地から石材加工産地へと転換しています。北木島の石材加工は地場産業として、笠岡市全体の工業出荷額の一二％を占めています。その中で、原石をコストの安い外材を輸入し、加工するという形態に変化すると北木島で工場を営む理由がなくなり、より便利な笠岡湾干拓地の工業団地へと移転する工場も少なくありません。加工場が北木島にある場合でも子供の教育等の問題から、本土に住居を構え、北木島へ通勤するケースも増え、年々島の人口が減少しているのが現状です。

はじめに

平成八年度は日本離島センターの助成金をいただいて「キタギ石都のルネッサンス」事業をすすめる中で私たちは大きな確信を持つことができました。それは、島の人全てがこれまでの北木の石材産業について大きな誇りを持っている、石材産業の復興なくして島の活性化はないということです。

私たちは先人の偉業に触れる度に、その熱き心を感じる事ができます。その都度、同じ島に生まれ、石材産業に従事している者として「今やらなければならないことは何か」ということを自分自身に問いかけ行動にうつしています。島を心より愛する一人として熱き心を若い世代、子どもの世代に確実につなげることができればと考えています。

そこで、これまでの島での活動やこの「キタギ石都のルネッサンス」事業の報告をするなかで、購読されている諸先輩のアドバイスをいただければ幸いと考えています。

I　かさおか石彫シンポジウム

平成元年にふるさと創生の一億円事業の一つとして笠岡市が取り組んだのが「かさおか石彫シンポジウム」です。笠岡市在住の彫刻家五十嵐晴夫氏の発案により、北木石の新しい可能性を探るというテーマで芸術という新しい付加価値を石材に求めるというものです。第一回は、平成元年に北木島で行われコンクールで選ばれた一〇名と、招待作家として六名の計一六名が、公開制作（石彫シンポジウム）により作品造りに取り組みました。地元北木島での実施ということで、私ども石材商工業組合も積極的に事業に参加し、特別参加として「朝日にかける虹」という石のアーチ

を制作しました。

その後、平成四年、平成五年と続けて二年、第二回及び第三回の石彫シンポジウムが笠岡で開催されました。当初の主目的である石材販路拡張、石材産業の振興という観点より、新しく造成した公園への石彫設置のために、シンポジウム形式により市が安く石彫作品を買い上げるといった目的に落ちいる傾向となり、石材産業との関わりもそれぞれの作家の原石購入時のみといった問題点も指摘され、せっかく北木石のイベントであるにも関わらず、その目的を十分に活かす事が出来ていないという反省点も出ている現状です。私たち石材産業の主体的な取り組みが、事業の当初の目標を達成するキーポイントであると、強く感じているところです。

II　北木ストーンフェアー

平成四年から北木石材商工業組合が主催で隔年で開催しており、平成八年実施で第三回を数える大イベントです。このイベントの目的は北木石の石製品及び石材関連製品を展示、紹介することにより、その需要の増大とあわせて技術の進歩、品質の向上を目指すと共に地域社会に石材産業の理解を深め、業界の発展・振興と地域の活性化を目的とするものです。

毎回、テーマを考えて新しい事に挑戦する機会でもあります。昨年は「メモリアル・ニューデザイン」で、墓石の新デザインで更に積極的な販売店支援を進めるという目的で行いました。従来の定型の注文生産では他との差別化が図れない、加工側から従来の概念を乗り越えた発想、デザインが求められつつあるといえます。石材産業にもデザイナー、コンピュータープログラマー等が求められる時代であり、それにいち早く対応するのが、全国ではじめて石工の職業学校を開講させた先人の心意気を受け継ぐ私たちの使命であると思っています。

III　島の「まちづくり」

笠岡市の市民参加のまちづくりの面では、平成八年度から「元気笠岡まちづくり支援事業」という新しい事業がおこなわれています。これは市役所の三〇代の職員でつくるワーキンググループという政策提言グループの研究により市長に政策提言が行われて、市民全体のまちづくり政策として行われているものです。

具体的には、「市民が」「地域で」「新たな」「特色ある」「まちづくりの取り組み」を行うグループごとに計画書を提

出し、それを夢フライト委員会（大学教授を始め、アナウンサー、漫画家、建築家、JCなど市内外から多彩な7名の選考委員を委嘱）で書類やヒアリング等により選考。ソフト事業五〇万、ハード事業一〇〇万円の補助金を交付するというものです。補助金については事業開始時に支給、事業終了後、報告書と共に清算するという画期的なしくみとなっています。

初年度募集に三一件の応募があり、一三件採択されています。北木島からも何と四件応募し、二件採択されました。その一つが、北木島中学校PTAが中心となって行う、石材関係の資料木の作成で、もう一方が、公民館を中心にした「きたぎ忠臣蔵」とよばれる島芝居の二つの事業です。私は両方とも関わりが有るのですが、特に「きたき忠臣蔵」では大石役を演じた一人です。準備から公演に至るまで地元放送局が取材し番組を制作するなど、大いに離島からの情報発信になったのではないかと思っています。

行政も人口減少が激しい島地部についての対策を講じつつあると感じています。岡山県の離島は島単独で自治体をおいている所がなく、県全体で離島の数も少なくなかなか行政要望が達成できません。笠岡市においては陸地部と島地部があり、島は有人島を七つもかかえるといった現状です。それぞれの島において地域づくりに取り組まないと、地域は廃れてしまうと切実に思うのです。いろいろな事業を行政と手を添えて行い、関係を密にして情報を集めることも大変必要なことであると考えています。

IV　出会い島めぐりツアー

島の活性化、人口増対策の際に問題にあげられるのが、若者の結婚難問題です。これが島地部となってくると一層拍車がかかります。現在北木島には一〇〇名を越える適齢期の未婚男性がいます。島では女性と交流する機会がほとんどないのが現状で、しかたないといえばしかたないのですが、そんな悠長なことを言っていられないのが現状です。私は常々、女性と島の男性が交流する機会をつくれないかと思っていました。

たまたまそんな時、市の方から島地部だけの未婚男性を集めて島で交流事業をしたいとの話があり、「出会い島巡りツアー」と題しての事業となったわけです。これは平成七年度の「離島人材育成基金助成事業」の補助をいただいた事業です。北木島の未婚者の中から実行委員会を選出し、企画立案をし、私たち世話人会がそれを助けるというスタイルで会議を重ねました。

企画としては、北木島の沖の真鍋島で七〇人（笠岡諸島

四島から参加）の男性が待機、笠岡からの女性一〇〇名を出迎える→顔合わせを行い、北木島へ渡る→花火による歓迎、会場までの道の両脇に島の人垣ができて拍手にて出迎え→歓迎式典のあとバーベキュー・郷土芸能披露など、盛りだくさんのイベントを行いました。フリータイムではグループごとに石材工場見学、モーターボートクルーズ、釣りなどの好きなコーナーで楽しみながら交流を深めるというものでした。結果としては一三組のカップルが成立し、現在二組が結婚したというおめでたいイベントになりました。

V　キタギ石都のルネッサンス事業

離島人材育成基金助成事業の話を市から聞き、各種団体でもこの事業の実施主体になれるということで、これまでの市の事業に対して受け手でしかなかった組合が自ら考え、新しい石材産業の活路を見出すことを目的で行ったのが平成八年度離島人材育成基金助成事業である「キタギ石都のルネッサンス事業」です。

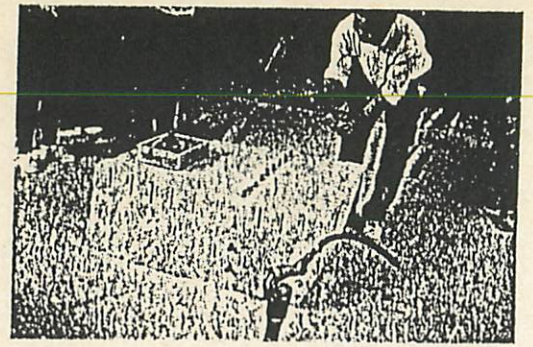
過去三回の石彫シンポジウムの開催は北木石のイメージアップと新鋭作家を育てるといった観点、また、一度に多くの作品を安く取得できるといったメリットはあるかもしれないが、地場産業振興には必ずしも繋がっていないという分析から、デザイナーや石彫作家はあくまでもコーディネーター的な役割を行い、制作については石材商工業組合青年部のメンバーが作るといった手法がおもしろいのではないかということでの実施です。

また、もう一つの柱として「中学生石見聞録」と題し、地元中学生が先人の業績に学び石材産業を見直してもらうという二つの目的から事業をすすめました。

(1)　体験石材採掘

まず最初は七月二十五日(木)に行った北木中学校の生徒と一緒に石を切り出す「丁場」の取材です。この取材を通じて石材採掘の歴史について身近に感じることができました。北木島の石材採掘が始まったのは徳川時代の初期とされている。明治中期には約三〇ヶ所、また、昭和十年頃には、八〇ヶ所と丁場が増加。そして、建築資材として日本の近代化に大きく貢献しました。

現代は、鉄筋コンクリートに薄く切った石材を貼り付けていますが、当時は、大きい石そのものを建築材として使用していたそうです。日本銀行大阪支店の石柱や靖国神社の大鳥居にも北木石が用いられています。採石業が最も盛んだった昭和三十二年頃には丁場の数が一二七にのぼって



石割風景

いました。そのころは、建築資材としてはもちろん、瀬戸内海沿岸各地の埋め立て工事等のための資材として大いに使用されていました。昭和三十五年頃から石材加工場が増加しはじめ、需要の多様化とともに、移・輸入材の使用が増加しました。

これに反し、石材採掘の方では、丁場数が四分の一に減少してしまいました。それは、瀬戸内海の環境保全や工業用地の埋め立て規制、採石法による各種規制の強化により捨て石の需要が激減し、丁場では採算がとれなくなったためです。そして、現在、稼働中の丁場は約八ヶ所。採石業は廃土石の処理の問題・安い外材との価格競争等の課題を抱えていることなどを勉強しました。また、石材の小割の実演も体験し、大きな石を割るのに小さな矢を打ち込むだけできれいに割る技術を、子ども達は興味深く見ていました。採石はつらい危険な仕事だけれど、それだけ造り甲斐のある仕事だと感じてもらえばいいと考えています。

(2)　五回の研修会の後、共同制作へ

一方、共同制作モニュメントの研修会は七月三十日(火)から九月五日(木)の間に五回開催しました。

内容的には、講師に地元の石彫作家五十嵐晴夫氏及びデザイナーとして高橋秀幸氏を講師にお願いし、石材業界の抱えている問題点の分析をはじめ、地域にアピールする石のモニュメントのデザイン検討など、真摯に議論が交わされました。

高橋氏の講義の中で、「今、北木の石材業界に欠けているところは、墓石だけに終始するのではなく、それぞれの得意な分野を研究して新しい活路を見出すチャレンジ精神ではないか。」また、「今回のモニュメント等で石材商工業組合の実績をつくり、もっと公共事業に積極的に参入していく努力が必要ではないか。笠岡は北木石の産地として、ふんだんに石を使ったまちづくりが考えられる。そういうプランを市に対して提案出来る力をつけることが必要である。」など、私たちのこれから進む道について的確なアドバイスをいただき、力づけられた次第です。

そんな中で、デザインの検討が重ねられ、いろいろな要素を兼ね備えたモニュメントということで「星見台」が候補に上がり、施行に関しては石彫作家の五十嵐氏のアドバイスを受けながら、具体的な作業をすすめました。

その中で、市の計画している公園内の花時計に替るものとして、星見台を提案してはどうかとの意見なども出ました。予算的にも二〇〇万程度の事業であるということ、星見台として北極星の観察や太陽の軌道など、科学的に十分なものにするためにも今回はミニチュアの制作とし、作品を中学校に設置し一年間生徒に観察していただくなかで、科学的コンセプトを十分なものにしたいということで、無理せずにミニチュア制作に決定し設計を進めました。

また、一人でも多くの協力者を得るという観点から、地元の北木中学校の妹尾教頭先生、土屋先生（理科担当）にも協議に加わっていただき、科学的観点からのアドバイスをいただきました。

こうして、基本的なデザインが出来上がり、設計図に落とされ、石材商工業組合青年部がそれぞれ三班に分かれて九月十五日から制作に入りました。

設計図が出来れば加工はお手のもので、全体での石統一ならぬ意志統一を数回行い、それぞれの分担について設計図どおりの施工を進め、大いに盛り上がったものです。

議論が重ねられた研修会

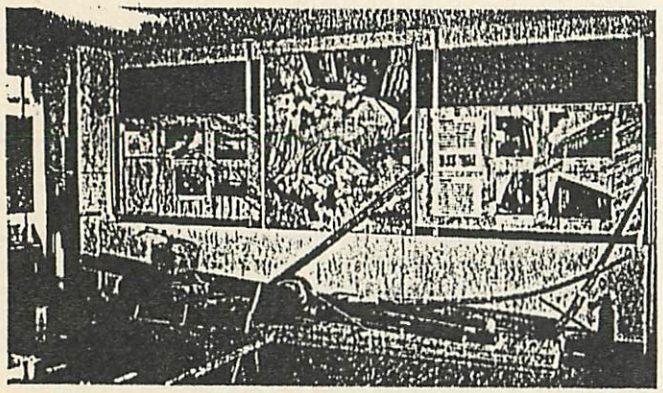
(3) 北木中学校に石の博物館

こういった事業のながれと、北木中学校五〇周年ということで、中学校の空き教室を利用して石の博物館を作ろうという計画が、中学校のＰＴＡで進みつつありました。

この北木石記念室については、①母校の空き教室を利用して、ふるさとの誇り「北木石」に関する資料を展示し、北木石の採掘とともに発展してきた北木島を支える石材業についての理解を深めるとともに、ふるさとを語る力量を高め国際化社会に生きる人材形成の一助とする。②記念室を支援された卒業生並びに北木島町住民に公開し、ふるさとづくりの一端を担う。③

提供を受け展示する資料は、貴重な石材史の証言であり、将来に渡り保存されるべきものであるから、将来的には公的展示機関設置までの経過的なものである。との考え方にたって、平成八年十一月に完成しています。総べての収蔵品が地元の石材業者のご厚意により寄付されたものばかりであり、あらためて伝統保存の必要性と石材の街であるという誇りを感じた次第です。

展示内容も、実行委員自らがコンセプトの決定・配置・収集総べて自らが行うという手づくり事業でしたが、卒業生からの寄付金が思いの他集まり、パネルや展示台などはプロのアドバイスを受け、見た目には一般の博物館と比べ遜色のないものとなっていると自負しています。記念室の中央には九人が座って会議ができるように、北木石で作ったテーブルとイスを配置して、普段の授業でも使える様に配慮しています。先人の石材に対する熱い思いが、少しでもそこで教育を受ける生徒達に伝わればという教師と親との儚い願いなのでしょうか。



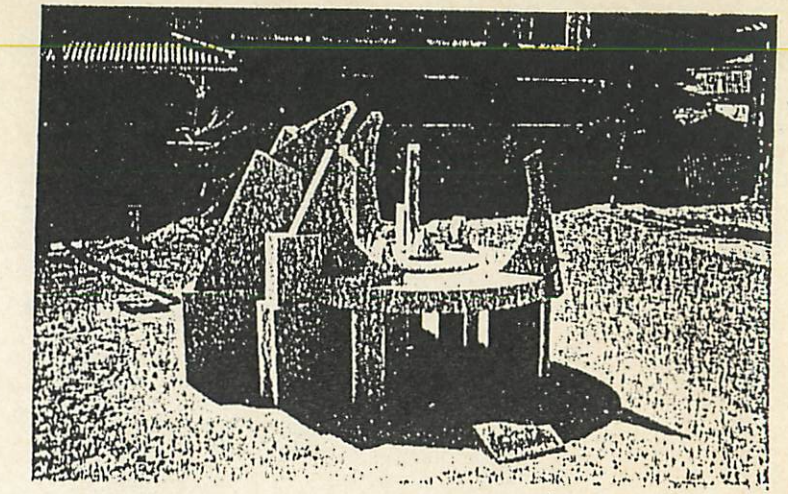
手づくりの石の博物館

(4) 北木ストーンフェアーでお披露目

十月十九日・二十日の北木ストーンフェアーの中での作品展示をおこないました。この場で初めてそれぞれのパーツが一同に集まり作品になるということで、フェアーの前日は準備のためメンバーが総出で、我が社の準備そっちのけでほぼ一日かけて作品を組みあげました。一部修正はあったにも関わらず、大事には及ばず設置することができました。六分の一とはいえ、高さは人の身長より高い二メートルでなかなかの迫力があり、前日から注目を浴びていました。期間中、幾度となくこの事業および星見台のコンセプト等について参加者に説明するといった場面があり、アピール度はまずまずのものでした。

(5) 北木中学校へ本設置

三月三日(月)「星見台」は島の石を語り、伝える集大成作品として、予定通り北木中学校へ設置しました。設置す



★ 星 見 台 ★

ストーンフェアーに展示された「星見台」には次のような解説文と科学的コンセプトが表示されました。

「星見台」制作の計画は、「キタギ石都のルネッサンス事業」の中で、北木石材商工業組合青年部が北木島にデザイン講師高橋秀幸氏、アドバイザー五十嵐晴夫氏、北木中学校妹尾勁教頭先生、理科担当土屋智亮先生をむかえ、北木島の歴史的な石材加工技術を生かし、更に地元の石材産業を振興するため何が必要かを話し合う中で生まれた計画であります。

石材加工の技術を単なるオブジェとしてではなく、公共空間に設置できうる公共物、公共の教材としての提案がこの「星見台」という形にまとめ上げられました。

今回のストーンフェアーでは、実物の約 1/6 の大きさで皆様に見ていただき、ストーンフェアー終了後、北木中学校に設置されることになっております。北木中学校の生徒の皆様の協力のもと 1 年間の観察を通じて得られたデータから修正を加え、実物大の「星見台」を制作することを計画しています。

次代をになう子供たちが星や天体の動きを観察する中で、私たちの地球に関心を持つとともに「石」という人類最古の素材が、ここ笠岡、北木島の歴史的産業であることを知っていただくことは、私たち北木石材商工業組合青年部の願いであると同時に今回の計画の最大の目的であります。皆様のご理解、ご協力をお待ちしています。

(写真は北木中学校に本設置された「星見台」)

るメンバーの心境は一つのものを作り上げた満足感、事業を終えたという安心感…。いろいろあると思います。でも、一番大きいのはこの六倍もの作品を必ず作り、市内の公共空間に設置している風景を重ねあわせての新たな決意であって欲しいと考えていました。

おわりに

私たちは「キタギ石都のルネッサンス事業」を進め、自らの問題点を真摯に見つめることができました。その中で「星見台」という作品を生み出しました。この事業と並行し、第四回のかさおか石彫シンポジウムが平成九年七月二十一日から八月三十一日の期間で、北木島町で開催する予定となりました。今回は、全面的に石材商工業組合も実行委員に参加し、七人の石彫作家が七福人を制作し、石材商工組合でそれらを乗せる宝船を共同制作するプランで行われる予定です。石彫作家だけのシンポジウムでなく、地元の業界も参加できる地場産業振興のシンポジウムになるようにしたいと考えています。

このような動きと共に、平成四年の第一回北木ストーンフェアーにおける北木島活性化計画の主旨の中で「北木島の石材産業は歴史ある貴重な財産であり、年間二〇〇億円の売上を誇る、笠岡市にとっても大切な地場産業である。それゆえに産業の経済基盤を軸として島民と行政と産業が一体となって、二十一世紀に向け、夢と希望と誇りを持てる「島づくり」を提案する。石材産業の企業人が島の未来ビジョンを掲げ、二十一世紀の北木島発展に協力していく所存である。」と述べられているように、石材振興を島の活性化につなげる努力をすすめる必要があると痛切に感じています。

ここ数年間、事業をすすめる中で今後の石材産業の進むべき道が提起されつつあります。これは誰から教えられたものでもなく、私たち自身の力で導き出した答えであるように思います。これを自らが実践することにより石材産業と島の活性化に発展させ、若者がのびのびと自己主張できる活気のある「石材産業のまち北木島」を復興したいと考えています。

今後、本当の意味の「石都のルネッサンス」を巻き起こす事を決意し、筆を置きたいと思います。

☆

☆

お知らせ

健康保養を核とした地域づくりの推進に関する調査
—魅力ある島づくり、人づくり—

国土庁では、平成九年度においてもアイランドテラピー構想の推進を図るため、以下のような事業を推進します。

今回は、健康保養や健康増進活動を所管している厚生省（保健医療局地域保健・健康増進栄養課）と共同で人材養成セミナーやシンポジウムの開催、離島における健康保養地のあり方等の検討を行うこととしております。

今年の事業に関心のある方は、国土庁地方振興局離島振興課までご連絡下さい。

〈お問い合せ先〉 国土庁地方振興局離島振興課、（担当）仲本豊、諸岡弘文
電話 03-3593-3311（内線 7762），直通 03-5510-8058

1．趣　旨

離島地域は、その地理的制約等から規模の大きな製造業の立地が進まず、また基幹産業である第一次産業の低迷や観光客数の減少等により、就業機会や若者に魅力のある職場の確保が極めて困難な状況にある。このため、依然として離島地域の人口流出、高齢化が続いている。

近年離島においては、自治体を中心に海をはじめとした地域資源の活用による健康保養や観光及び情報発信力の強化に力を注いでいるが、各自治体等においては、これらを核とした地域づくり等新たな施策を推進できる人材が不足している。

このため、本調査においては、健康保養地（健康のために連続して取得する「健康休暇」のうけ皿となる保養地）の整備や観光の振興及び情報化を核とした魅力ある島づくりの方策について検討するとともに、魅力ある島づくりの推進に必要な人材の育成・確保のための人材養成セミナー及びシンポジウムの開催等を行うことにより、低迷している離島地域の活性化を図る。

2．事業概要

(1) 魅力ある島づくり、人づくりに関するアンケートの実施
(2) 地域づくりのための人材養成に関する海外及び国内先進事例調査
(3) 魅力ある島づくりのために必要な人材の養成セミナーの開催
(4) 魅力ある島づくり、人づくりに関する国際シンポジウムの開催
(5) 離島における健康保養地のあり方及び離島活性化方策の検討

平成９年度離島人材育成基金助成事業決定

本財団では、関係市町村の拠出による「離島人材育成基金」を創設し、離島住民の自主的な島づくり活動をバックアップするための助成事業を、平成７年度から毎年実施しています。

今年度は、別紙の通り 14 の事業に助成することが決まりました。

なお、来年度事業（平成 10 年４月以降実施のもの）の募集は、平成10年１月に関係各市町村に募集要項を送付する予定になっていますので、たくさんのご応募をお待ちしております。

本助成事業は、離島に在住する一般の方々やサークル、各種団体でも応募できます。

お問合せ先　日本離島センター総務部
TEL (03) 3222-1151
E-mail　nijinet@po.infosphere.or.jp

平成９年度離島人材育成基金助成事業一覧

都道県名	市町村名	事業名	事業主体	助成金額
宮城県	石巻市	獅子舞・マンガ——浜で夢見る「田代島夢まつり」	田代島夢まつり実行委員会	千円 725
新潟県	出川町	姫津大橋完成記念「姫津いかイカまつり」	姫津漁業協同組合青年部	500
〃	金井町	風と光のページェント	金井町観光協会	550
愛知県	一色町	弁天海港"ホールド・オン"事業	島を美しくつくる会	1,000
島根県	西ノ島町	実行委員会「ノア」活動事業	実行委員会「ノア」	1,000
広島県	蒲刈町	「アイランドテラピスト」養成支援事業	県民の浜「輝きの館」	1,000
香川県	高松市	ビッグウェーブ in 男木島	ビッグウェーブ in 男木島実行委員会	1,000
愛媛県	弓削町	ふるさとコミュニティリーダー養成事業	弓削町役場	1,000
佐賀県	鎮西町	「加唐島夢かなえ隊」プロジェクト	つばきの会	1,000
長崎県	崎戸町	崎戸町郷土料理研究開発事業	崎戸町観光協会	500
〃	奈留町	五島鳴神太鼓保存会人材育成研修事業	五島鳴神太鼓保存会	1,000
〃	蕨原町	豆腐の里ホームステイ	豆腐漁村ホームステイ連絡協議会	487
鹿児島県	西之表市	「はばたり安城の子」交流事業	西之表市安城校区	624
〃	中種子町	平成九年度中種子町地域間交流事業「宇宙体験とふるさとの夏のふれあい旅」	中種子町教育委員会	600
			合計	10,986千円

参考　平成９年度助成事業申請総数 28 件・助成金総申請額 40,186 千円